

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム 昭ちゃんの家
訪問調査日	平成21年8月30日
評価確定日	平成21年10月28日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム 昭ちゃんの家
所在地	鹿児島県志布志市有明町蓬原554番地6号 (電話) 099 - 475 - 2224

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年8月30日	評価確定日	平成21年10月28日

【情報提供票より】(21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	11人	常勤	7人、非常勤	4人、常勤換算	8,6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費5,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	277 円	昼食	277 円
	夕食	277 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86,3 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みやじクリニック・しんどう歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧有明町の郊外、自然豊かな田園地帯に立地し、すぐ近くには「蓬の里」がある。広々とした敷地にはゲートボール場が隣接しており、地域の方々々がゲートボールに訪れる。また、夏休みは地域の子どものためのラジオ体操の場としてホームを開放しており、子どもたちとラジオ体操をすることが利用者の楽しみにもなっている。法人の院長宅が隣接し、毎朝、院長の訪問があることで家族の安心にもつながっている。災害対策も地域住民の協力が得られる体制が整っており、消防訓練への参加や緊急連絡網に入ってもらえるなど地域との付き合いも密である。職員の自己研鑽意欲も高く今後のホームの取り組みに多いに期待できる。開設5年目を迎え、更に充実したグループホーム運営と地域に密着した生活の提供が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携は機会をとらえて報告や相談など行い連携に努めている。共用空間の細かい配慮については常に整理整頓するなど片づけられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組みは今年度に入ってから早速職員に振り分け全職員で取り組んだ。気づき、再確認の機会になり、意義のあるものとしてとらえ、マンネリ化を防ぐ機会にもなっている。外部評価の結果は各家族と、運営推進委員のメンバーにも配布している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表、利用者代表、自治会長、行政職員などの参加を得て、2ヵ月に1回開催している。ホームの状況報告や地域との交流実績などの報告を行っている。今後は更に充実した内容の運営推進会議になるように討議内容を検討し、取り組みを強化していきたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関先に意見要望箱を設置したり、面会時や電話などで話をする機会に意見要望を聞き出すように努めている。また、年1回記名式のアンケートを実施している。出された意見要望については運営者、管理者、職員で話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常、買い物、散歩などであいさつや会話をするなど意識的に地域との交流に努めている。地域の奉仕作業に利用者とともに参加したり、隣接のゲートボール場に来る地域の方々へ声かけし、ホームの催しに招待するなど積極的に交流を心がけている。また、地域の小学校の運動会の見学やふるさと祭りの見学に出かけたりしている。中学生の職場体験学習の受け入れや夏休みの子どもたちのラジオ体操の場としてホームを開放するなど子どもたちとの交流も積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームを[家]としてとらえた5つの文言の理念を職員全員で作り上げている。その中に「地域と交流できくつるげの家」という文言があり、地域密着型として地域との交流の重要性をうたっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、リビング、職員トイレに掲示しており、朝礼時に唱和を行い、毎日理念の確認をするようにしている。日々のケアでも理念に沿った支援を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常、買い物、散歩などであいさつや会話をするなど意識的に地域との交流に努めている。地域の奉仕作業に利用者とともに参加したり、隣接のゲートボール場に来る地域の方々に声かけし、ホームの催しに招待するなど積極的に交流を心がけている。また、地域の小学校の運動会の見学やふるさと祭りの見学に出かけたりしている。中学生の職場体験学習の受け入れや夏休みの子どものためのラジオ体操の場としてホームを開放するなど子どもたちとの交流も積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価に対する取り組みは今年度に入ってから早速職員に振り分け全職員で取り組んだ。気づき、再確認の機会になり、意義のあるものとしてとらえ、マンネリ化を防ぐ機会にもなっている。外部評価の結果は各家族と、運営推進委員のメンバーにも配布している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、利用者代表、自治会長、行政職員などの参加を得て、2カ月に1回開催している。ホームの状況報告や地域との交流実績などの報告を行っている。なかなか活発な意見が出ず、今後はサービス向上に活かせるようにホームとして取り組みを強化していきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は機会をとらえて報告や相談など行い連携に努めている。生活保護の利用者もおり報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などで話をする機会に状況報告をしている。また、季刊誌のホーム便りと健康状態、日常生活、各行事の様子などを記載した月次報告で報告している。金銭管理は法人の事務所にて管理しており、金品預かり書にて2～3ヵ月ごとに確認してもらっている。職員異動は面会時や月次報告などで報告している。玄関に職員紹介も掲示している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見要望箱を設置したり、面会時や電話などで話をする機会に意見要望を聞き出すように努めている。また、年1回記名式のアンケートを実施している。出された意見要望については運営者、管理者、職員で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さは理解している。新規採用者には十分な引き継ぎをし、夜勤の際は慣れるまでベテランの職員と組むなど勤務の組み方にも配慮している。職員の半数以上は開設当初もしくは2～3年以上の勤務で利用者とのなじみの関係が構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム便りにも「職員研修報告コーナー」の欄を設け研修参加者より報告文を掲載している。また、新規採用者は他のグループホームでの1日研修を行っている。段階に応じた研修計画も作成しており、各種研修会などの参加を支援している。外部研修は研修報告をして職員全員が情報と知識を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会などに管理者、職員も参加して交流している。他のグループホームの訪問もあり、こちらから新規採用者の1日研修の場として他のグループホームでの研修もお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に昼間に施設見学を兼ねて体験入所をしてもらい、他の利用者の方々とお茶を飲んだり、話をしたりして雰囲気を見てもらっている。入所当初は家族の理解と協力をもらい、利用者が徐々にホームに慣れるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を介護されるのみの立場におかず、菜園作りなどアドバイスをもらったり、料理について教えてもらったりしながら支え合う関係を作るように努めている。日常のケアの中で利用者から「ありがとう」の言葉をもらうことが職員の励みにもなっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報、日常の会話や言動、表情などから思いや意向の把握に努め、「できること」をひとつでも見つけ全体像の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の思いや希望、職員の意見などを反映させた本人本位の介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意をもらっている。更新時のカンファレンス会議には家族も参加してもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は特に大きな変化がない場合は6ヶ月で見直しを行っている。本人、家族、職員の意見、介護記録などを参考にし、毎月ケース会議を行い、見直しに活かしている。地域密着型として地域に出かけるなどの計画も盛り込まれている。状態変化時、入退院後の見直しは都度行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅訪問やお墓参り、なじみの理美容院の送迎や病院受診など本人や家族の要望や状況に応じ、事業所の多機能性を活かし、柔軟な支援を行っている。また、希望があれば法人のクリニックでリハビリなども受けられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は契約時に本人、家族に説明し、同意を得ている。毎朝、法人の医師の訪問があり、利用者の健康状態の把握ができています。法人の看護師の訪問もあり、日頃より医療面、健康管理などについて助言をもらっている。また、他の主治医との相談体制もできています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた話し合いは入居の際に家族に説明し、納得してもらっているが、家族が終末期に関してまだ現実的なものと感じておらず、敬老会などで繰り返し説明を行っている。職員はホームの方針を認識しているものの共有しているとまではしていない。		重度化や終末期に向けた方針は再度、職員全員で話し合い、ホームのリスク軽減と家族の安心につながるように、指針の再確認を行う必要がある。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー保護については、さりげなく声かけをするなど配慮している。ホームでの話し合いの中でも点検したりしている。記録物は事務所に保管している。職員採用時の個人情報の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、あくまでも目安であり、体調や希望に合わせた暮らしの支援をしている。また、入浴希望、外出希望、食材選びなど希望、意見を表出しやすい場面作りを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの能力に合わせて食事の準備、配膳など職員とともに行動など、力を発揮する場面を作っている。また、菜園で採れた野菜を使って調理をするなど食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は最低でも週に2回以上は入ってもらうようになっている。希望があれば毎日でも入浴は可能である。入浴拒否の利用者には声かけなどで工夫して入浴してもらっている。入浴後には「ありがとうねえ」と感謝の言葉をもらうこともある。また、1年に1回は福祉風呂のある温泉に全員で出かけ職員も一緒に入浴してコミュニケーションをはかっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、菜園作り、日めくりカレンダーの係など個々の役割や思い出の場所、外食、遠足、花見、温泉などに出かけるなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。また、夏休みに子どもたちのラジオ体操の場としてホームを開放しており、子どもたちとラジオ体操をすることも利用者の楽しみごとになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、近隣のドライブとホームに閉じこもらない支援をしている。また、利用者の希望により、買い物に出かけるなど、これまでの生活としてとらえる外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、外出傾向のある利用者を把握し、職員が常に目の届く範囲にいるようにしている。外出する利用者には職員がさりげなくついていき見守りをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地域住民の協力をもらい、夜間想定で消防訓練を行っている。地域住民は運営推進委員のメンバーと協力体制ができており、緊急連絡網では自治会長に連絡がいくと各班に連絡がいくようになっており、緊急連絡網の整備と地域住民の協力体制が確立されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	市役所の管理栄養士の指導を受け、栄養指導、点検、評価を受けている。月1回の体重測定と食事、水分摂取量は個々の記録をとっており、職員全員が把握できるようにしている。食事形態もミキサー食、きざみ食、とろみ食などで個々の状態に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには座り心地のいいソファやテレビ、テーブルも2カ所に設けてあり、利用者がそれぞれお気に入りの場所で過ごせるように配慮している。また、床材に竹を使用しており、柔らかい感触と温かみを感じられる。冬場の乾燥対策としてはリビングに除菌と加湿を兼ね備えた器具も設置しており、居室にはぬれタオルをかけて乾燥を防ぐようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドとタンスはホームの備え付けだが、他は使い慣れた椅子や机、趣味のラジオなどが持ち込まれ、それぞれに居心地良く過ごせるように配慮している。		